

「地質の日」オンライン一般講演会 パブリックビューイング2025 in 四国西予ジオミュージアム

日本地質学の父 エドムント・ナウマン

お雇い外国人教師ナウマンは
フォッサマグナに挑んだ！

矢島道子 東京都立大学非常勤講師

私たちのよく使う「フォッサマグナ」「中央構造線」「内帯/外帯」などの言葉は1875年に来日したナウマンが提唱しました。帰国した1885年に現在と遜色ない日本の地質図を発表したナウマンは、どうして短時間でこの偉業を達成できたのでしょうか。

1. 13:35-14:35

ナウマンの研究した ゾウ化石

佐々木猛智氏 東京大学総合研究博物館

ナウマンは1881年に日本のゾウ化石についての最初の論文を出版しました。ゾウ化石を含む彼の研究標本は現在東京大学総合研究博物館に保存されており、一部を展示公開しています。関連する収蔵資料について紹介します。

3. 15:05-15:25

ナウマンと佐川の人々

森 浩嗣氏 佐川地質館

「緑なす山々…」で始まる書をナウマンが記した地・佐川町。この町では、彼のゆかりを各所で見ることができます。また、ナウマンに佐川を案内した高知の化石コレクター・外山燦についても併せてご紹介します。

2. 14:45-15:05

火の島に立つ

ナウマンが見た躍動の伊豆大島

臼井里佳氏 伊豆大島ジオパーク推進委員会事務局

1877年、ナウマンが訪れた伊豆大島は、安永の大噴火から約100年が経ち、なおも活発に噴火を繰り返す御神火の島でした。若き地質学者はこの躍動の中に何を見たのか。現代の風景と重ねながら、伊豆大島の魅力をご紹介します。

4. 15:25-15:45

ナウマン来日150年 その功績と足跡を辿る

5月10日(土) 13:30~16:00 (入室13:00~)

Youtube live で配信される中継を
当館でもご覧いただけます。

参加費：無料 準備物：筆記具等

実施場所：四国西予ジオミュージアム企画展示室1

申込：不要。時間までに会場へお越しください。(途中入退室可)

2025年はドイツの地質学者、エドムント・ナウマンが明治政府によって日本に地質学の教師として招聘されてから150年目にあたります。本企画では4名のお話から、彼が日本で果たした功績と影響について考えます。

□主催：日本地質学会 / 備考：講演内容に関するご質問には当館スタッフではお答えできません。

■お手持ちのスマートフォンやパソコンでもご覧いただくことができます。

自宅視聴はこちら

URL <https://www.youtube.com/watch?v=BWjqEgzDNuo>



SHIKOKU
SEIYO
GEO
MUSEUM

